

令和5年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑤ 肯定的評価76% 【判定:C】(前期:B -5%)	・前期と比べ、肯定的評価が-5%減少し、C判定となった。1年生の肯定的評価が-10%、2年生が-7%減少し、2年生においてはA「よくあてはまる」と回答した生徒が前期と比べ12%減少した。 ・全県から集まる本校の特徴を考えると挨拶はとても重要である。単に挨拶の重要性を伝えるだけでなく、様々なアプローチで生徒たちに考えさせ自発的な取り組みができるよう指導していきたい。
		提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑦ 肯定的評価86% 【判定:B】(前期:A -4%)	・前期と比べ、肯定的評価の変化はなかった。ただし、2年生でA「よくあてはまる」と回答する生徒が9%減少した。 ・フォーサイトの効果的な活用を生徒と確認するなど、学習計画とともに提出物についても管理できるよう指導を工夫していきたい。
	1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート② 肯定的評価91% 【判定:A】(前期:A +1%)	・前期に引き続き肯定的評価は高い。保護者アンケートや教職員アンケートにおいても同様に肯定的評価が高い。 ・今後も生徒、教員ともに充実した部活動となるよう引き続き指導を行ってきたい。
	1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	1年生:4級65% 2年生:3級78% (準2級15%、2級1%) 3年生:準2級55% (2級6%) 【判定:A】	・昨年度に引き続き、全学年で高い取得率である。 ・夏休み中のプリティッシュヒルズへの合宿など、本校の特色となる行事なども引き続き継続させながら、生徒への意欲喚起を促していきたい。
	1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価75% 【判定:C】(前期:B -6%)	・前期と比べ、肯定的評価が6%減少し、C判定となった。特に、3年生の肯定的評価が9%減少している。 ・教科・委員会等の取り組みを続けながら、様々な本に触れられるような機会を作るなど工夫が必要である。
		朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価94% 【判定:A】(前期:A +1%)	・前期に引き続き、どの学年においても肯定的評価は高い。 ・落ち着いたスタートで朝を迎えている。その大切さなどを実感させる指導を引き続き行っていくたい。
	1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等とおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート(教育活動⑭) 肯定的評価100% 【判定:A】(前期と同様)	・前期同様、些細なことでも見逃さないという教員の意識は高い。また、迷惑行為等の問題にも組織的に動いている。 ・今後もアンテナを高く、生徒指導主事を中心に共通理解を図りながら組織的に対応できるようにしていきたい。
	1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価78% 【判定:C】(前期:C +1%)	・前期と比べ、肯定的評価に大きな変化はない。ただし、A「よくあてはまる」と回答した生徒が8%減少した。特に2年生は、12%減少している。 ・自己存在感、自己肯定感を高めるような工夫等を教員で共通理解し、実践していきたい。A・B評価の生徒だけでなく、CやD評価の生徒にも着目しながら取り組みを進めていきたい。

2	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にできる豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にす る心、より良い社会の実現を目指すな どの道徳性を育くむ。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が 自己の成長や人を大切にす心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価90% 【判定:A】(前期:A -1%)	・前期に引き続きどの学年においても肯定的評価は80%を越え、 高い数値を示している。ただし、2年生は、A「よくあてはまる」と回 答した生徒が12%減少している。 ・今後も、計画的に道徳教育を進めるとともに、生徒が自己の成長 を実感できるような指導や取り組みを工夫していきたい。
		2-2	総合的な学習の時間や特活の時間を 中心に6年間を見通したキャリア教育を 実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や 目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑫ 肯定的評価72% 【判定:C】(前期:C -6%)	・前期と比べ肯定的評価が1年生で7%、2年生で9%減少した。他 に、D「まったくあてはまらない」と回答した生徒が1年生で10%、2 年生で7%、3年生で5%いた。 ・将来への見通しを持たせる指導だけでなく、今、現在でなくても6年 間の中で、夢や希望が見つけれられるような働きかけも行っていく必 要がある。
				キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑬ 肯定的評価90% 【判定:A】(前期:A -2%)	・前期と比べ肯定的評価が2%減少したが肯定的評価は高く、A 「よくあてはまる」と回答する生徒が46%と半数近くいる。 ・よい機会と捉えている生徒が、そこから将来の自分へとつなげら れるよう、内容の更なる工夫・改善を図ってきたい。
				将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑭ 肯定的評価73% 【判定:C】(前期:C -5%)	・前期と比べ、肯定的評価は5%減少した。特に1・2年生ともに肯定 的評価が8%減少している。 ・夢や目標に向かい、今の自分に必要なことが何なのかを考えるこ とや実現に向かいどう行動していけばよいかなどに気づけるよう指 導していく必要がある。
		2-3	学級会活動や生徒会活動において、1 年生から段階的に話し合い活動や自 治的な活動に取り組ませ、自主的・実践 的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り 組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑳ 肯定的評価89% 【判定:B】(前期:A -1%)	・前期と比べ肯定的評価に大きな変化はないが、B判定に下がっ た。ただし、2年生のA「よくあてはまる」と回答した生徒は8%減少 した。 ・活動の目的だけでなく、その意義なども伝え、主体的な活動にな るよう声かけ等行っていく必要がある。

令和5年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策	
3	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師:教材研究】 肯定的評価100% 【判定:A】(前期:B +12%)	・肯定的評価が12%増加し100%となっている。A「よくあてはまる」と回答する教師も6割を越える。 ・今後も授業のベースとなる教材研究をしっかりと進め、生徒にとってよく分かる授業を意識し、実践していく必要がある。
	3-2 付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師】 肯定的評価100% 【生徒】 肯定的評価93% 【判定:A】(前期A) 教師:前期と同様、生徒:-1%	・前期同様、話し合い活動が、積極的に取り入れられていると生徒、教師、ともに9割近い肯定的評価となっている。 ・今後も効果的な場の設定(取り入れないも含め)になるよう工夫・改善していく必要がある。	
	3-3 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学びきる指導を行う。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑨) 肯定的評価76% 【判定:C】(前期:C +3%)	・肯定的評価は、大きな変化はなく、C判定のままである。 ・個に応じた指導は、授業での対応のみにとどまっている。学習部主導での計画的な取り組みが必要である。	
	3-4 論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑥) 肯定的評価100% 【判定:A】(前期:A +5%)	・前期と比べ5%増加し、肯定的評価が100%となっている。 ・引き続き研究の「考える軸を活かした指導」を基に、論理的思考につながる言語活動について工夫・改善を行っていききたい。	
	3-5 批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑧) 肯定的評価100% 【判定:A】(前期:A +5%)	・前期と比べ5%増加し、肯定的評価が100%となっている。 ・引き続き研究の「考える軸を活かした指導」を基に、多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、「批判的思考力」を身に付けさせたい。	
	3-6 高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑫) 肯定的評価88% 【判定:B】(前期:A -7%)	・前期と比べ、肯定的評価は7%減少し、B判定となった。 ・年間計画を見直すなかで、6年間での学びという部分を意識した改善を考えていく必要がある。	
	3-7 自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート⑥肯定的評価48% 保護者アンケート③肯定的評価61% 教職員アンケート肯定的評価75%(生徒について⑥) 【判定:C】(前期:C) 生徒:-13%、保護者:-4%、 教職員:-2%	・前期と比べ、特に生徒アンケートで肯定的評価が13%減少している。 ・特に2年生は、肯定的評価が20%減少しており、3年生は、肯定的評価が35%で、D「まったくあてはまらない」と22%の生徒が回答している。 ・家庭学習の意義や目標時間の再設定など、様々な部分の見直しが必要である。	

4	<p>教職員の働き方や業務改善に関する意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。</p>	<p>4-1 長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。</p>	<p>時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上</p>	<p>時間外勤務時間 月80時間を超える教職員の数 月平均3.8人(9~12月) 【判定:C】(前期:D -0.5)</p>	<p>・前期と比べ、平均が0.5人減少している。 ・今後も、業務改善や行事等の精選を行いながら、生徒にとって有意義な教育活動を推進していけるよう改善していく必要がある。</p>
		<p>4-2 中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。</p>	<p>中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満</p>	<p>保護者アンケート⑦ 肯定的評価83% 【判定:C】(前期:C -1%)</p>	<p>・前期と比べ、肯定的評価に大きな変化はないが、肯定的評価が8割を超える評価である。 ・今後もホームページなどを中心に、内容を工夫しながら学校の様子を随時、発信していきたい。</p>
			<p>秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満</p>	<p>秋の学校説明会 485名参加 児童:216名、保護者269名 【判定:A】</p>	<p>・今年度は、制限のない中での開催であった。多くの児童・保護者の参加があり、来期も会の内容の充実を図りながら、本校独自の良さが広く伝わっていくよう工夫が必要である。</p>
			<p>適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満</p>	<p>志願者数 255名 受検者数 252名 【判定:B】</p>	<p>・私立が増加している中でも、3年連続で倍率が2倍を越えた。 ・年3回の学校公開等の取り組みや校長を始めとする職員での小学校訪問、1年生の母校訪問などを通して、本校の魅力が伝えられた結果であると考え。</p>